

令和6年度 学校自己評価システムシート

(私立 春日部共栄高等学校)

目指す学校像	全人的人間の育成という精神を基礎として、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を育み、社会の発展に寄与する有能な人材を養成する。
--------	---

重点目標	1 社会貢献の意識を基礎とした高い志を育む自治活動の展開 2 生徒からの信頼や期待に高い水準で応え得る授業を中心とした教育活動の実践 3 生徒の可能性を引き出し、生徒の夢を実現する進路指導の充実 4 生徒、保護者、卒業生をはじめとする学校関係者への情報提供の推進
------	--

達成度	A	目標がほぼ達成できた
	B	目標が概ね達成できた
	C	取り組みに変化の兆しがみられた
	D	取り組みが不十分であった

＜学校関係者評価委員会＞	
協議委員（学校関係者）	7名
内部委員（教職員）	9名

年度目標		年度評価			
評価項目	具体策と評価指標	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	①「至誠一貫」の精神のもと、規範意識を高めリーダーシップを発揮できる人材育成とその伝統づくり ②年齢に応じた社会貢献やボランティア活動の実践 ③生徒どうしが互いに応援しあい達成感を共有できる環境づくり	a. 公共マナーや情報モラルの向上を目指す継続的な指導 →学校生活アンケート 設問1・2で①②の回答率90%以上 設問3・4で①②の回答率80%以上 b. 生徒の主体的発信を軸にした自治活動の確立 →学校生活アンケート 設問5で①②の回答率80%以上 a. ボランティアに対する意識啓発と年間を通じた働きかけ →学校生活アンケート 設問6で①②の回答率70%以上 b. 災害時、緊急時の対応と地域への社会貢献 →学校生活アンケート 設問7で①②の回答率80%以上 a. 「快音」等を利用した啓蒙活動の充実とお互いを認めあう意識づくり →学校生活アンケート 設問8で①②の回答率80%以上	a. 公共マナーについては97.9%、挨拶・感謝の気持ちは96.6%、交通ルールについては98.6%の生徒が①②と回答し高い数値で目標に達したが、スマホのルール作りと節度ある使用については68.3%にとどまった。 b. 生徒会や委員会から発信される情報については90.3%の生徒が意識して学校生活を送っている。 a. ボランティアへの参加・協力では①②に回答した生徒は52.0%にとどまっているが教員の意識は66.7%となっており生徒と教員の意識の差がある。 b. 防災意識は①②に回答した生徒は93.2%、教員は87.7%と意識は高い。 a. ほとんどの大会が通常通り実施されるようになり全国大会、関東大会、県大会出場クラブも多く、相互尊重・応援の意識は①②と回答した生徒は87.4% 教員は91.2%であり目標値を上回った。	A B A	a. 「他人への配慮十か条」が定着しつつあり、生徒の規範意識に対する自己肯定は高い。しかし、SNSのトラブルといった情報モラルに関する意識付けの部分がまだまだ不十分である。「共栄ルール」の一層の周知、学校外の機関と連携し情報リテラシー能力の向上に努める。 b. 自治活動は生徒主体の活動への転換を目指し、粘り強く指導する。 a. 学校発信のボランティアに関してはボランティアという認識がなく意識のところで低くなっていると思われる。募金活動や夢の森公園の植樹活動など積極的に「快音」で紹介し生徒へ啓発していく。 b. 実際の訓練、図上訓練、休み時間中の実施等を行い年々スムーズに進行できている。今後は方面別通学会とも協力し集団下校等更に様々な場面を想定していきたい。 a. 快音やInstagram、壮行会などで周知できている。どの部活も文武両道を軸に活動している。
2	①生徒の自己学習力育成を可能にする授業の実践 ②2期制・週5日・45分7限授業を踏まえた取り組み ③授業点検と改善の実施	a. 生徒個々の家庭学習計画の作成と実践 →学校生活アンケート 設問9・10・11・12・15・16・29で①②回答率70%以上 b. 個人面談を中心とした生徒個人に応じた学習・進路生活指導の充実 →学校生活アンケート 設問25で①②の回答率80%以上 →保護者アンケート 設問2で①②の回答率80%以上 a. 2期制を踏まえた授業や各種試験の工夫と改善 →学校生活アンケート 設問13・17で①②の回答率70%以上 b. 長期休業中の取り組みと工夫 →学校生活アンケート 設問11・14で①②の回答率70%以上 a. 授業アンケートの活用による授業点検と改善 →授業アンケート総合満足度の①②の回答率85%以上	a. 普段から学習計画を立てている生徒は平日41.7%、休日41.3%、試験前を含めると平日76.4%、休日78.2%であった。自学自習時間は平日2時間以上が45.4%、休日3時間以上が51.0%であった。 b. 個人面談では87.4%の生徒が役立っているという評価であった。保護者の方も87.7%がオンラインを含めたHRや面談を評価していただいている。 a. 小テスト等取り組んでいる生徒は79.1%、学習・部活・休養がバランス良くとれている生徒は77.7%であった。 b. 長期休業中も学習にしっかり取り組んでいる生徒は74.3%、またChromebookを学習のために有効活用できている1・2年生は77.2%であった。 a. 授業に対する総合満足度は93.2%の生徒が①②に回答、教員の授業点検も84.2%と上昇している。	A A B	a. 週1~2回のLTを利用し自学自習や学習計画の立案、土日や休暇中の学習計画へのサポートを強化していく。 b. 面談を通して生徒個々の状況を把握し、生徒それぞれに合わせた指導・提案をすることができるよう担任教員のスキルアップを図る。 a. 日課表やLT計画表を利用し、課題や単元テスト・小テストが偏らないよう調整しスケジュールを工夫する。 b. 長期休業中の学習への取り組みに対してのサポートをさらに検討していく。Chromebook 端末を利用し、動画学習の活用なども促していく。 a. 授業でのICT活用について、教員間での研鑽やスキルアップを図る。有効に活用出来ている教科からの情報収集・共有を進める。
3	①生徒の可能性を引き出し、生徒個人に応じた進路開拓と大学選択 ②授業の充実と進学講習や模試等の仕掛けによる学力増進	a. 学年に応じた説明会や進路フェア、講演会、「Academic Issues」等を利用した啓蒙活動の充実および意識啓発 →学校生活アンケート 設問18・19で①②の回答率80%以上 b. オープンキャンパス等を利用した主体的な進路研究の実践 →学校生活アンケート 設問19・20で①②の回答率80%以上 c. 生徒・保護者対象進路説明会の実施と保護者からの意見集約 →保護者アンケート 設問7で①の回答率70%以上 a. 各種講習や試験の整理および充実とその活用 →学校生活アンケート 設問21・22・23・24で①②の回答率80%以上	a. 「Academic Issues」や「進学通信」が役立っていると回答した生徒は62.8%で目標値の80%に届かなかった。(昨年度は64%) b. 本校主催の「進路説明会」や「進路フェア」、卒業生による「オープンキャンパス」が役に立っていると回答した生徒は71.5%でほぼ横ばいの結果となった。 c. 12月に実施した「2年生の生徒と保護者対象の説明会」は75.4%の方が視聴し、そのうち71.6%の保護者参考になったと回答した。 a. 本校の「長期休業中の講習」や「セミナーハウス」などへの満足度が58.6%(昨年 85.5%)と大きく数字を下げた。また、「日常の講習」への満足度も45.2%(昨年 73.2%)と大きく数字を下げた。	A B	a. 「Academic Issues」や「進学通信」の内容を生徒に周知させるために、ガイダンスの時間の目安を提示した。 b. 「2年進路フェア」を春から夏へ移行してより充実を図る。また、「1年進路フェア」は春と秋の2回の実施とし、1年生の意識改革に繋げられるようにする。 c. 保護者対象の説明会は引き続き実施していく。 a. 満足度が著しく数字を下げた原因を追求して、夏期講習から改善できるよう準備する。 ※東大選抜コースの仕掛けは五月祭・東北大学のオープンキャンパス・東大金曜講座への参加等を準備。
4	①本校Webサイト等を活用した学校関係者への情報発信	a. ホームページの充実と効果的な運用 →保護者アンケート 設問8で①②の回答率80%以上 b. 保護者向け連絡システム(BLEND)の有効活用 →保護者アンケート 設問9で①の回答率80%以上	a. ホームページを閲覧した保護者の88.9%が見やすい、わかりやすいと評価している。 b. BLENDについて役立っていると回答した保護者は75.7%、②の回答を含めると98.5%と高い評価であった。	A	a. ホームページの抜本的な改修を実施予定。在校生や受験生向けに積極的な情報発信をしていく。 b. 保護者連絡については大変好評を得ている校内の運用でミスが減少するよう教員側の意識向上が必要である。

学校関係者評価
最終実施日令和7年3月29日
学校関係者からの評価・要望
<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS,スマートフォンの使用方法による問題は近年若年化している。高校時代は人間形成の大切な時期であるので継続的な指導をきちんとしてほしい。 ・ 学校自己評価アンケート設問1・2の数値が年々下がっている。進学指導だけでなく、生徒一人一人が共栄生として自覚ある行動ができるよう指導頂けることを期待する。 ・ 安全管理、防犯について。野球場側のフェンスの破れ、東門と南門の開閉について気になった。修理と、時間を決めて門を閉じる等防犯の強化が必要かと思う。 ・ 全校で応援が可能な企画は今後も続けてほしい。今年は是非甲子園に出場してほしい。 ・ LT は有効に活用できているようだが、教員の働き方改革の中で、学習塾とのタイアップなど視野に入れてみてはどうか。 ・ ICT を活用した教育に関しては教員間、教科間、生徒間での温度差が感じられるが、これは「やらなければならない分野」として成果に期待したい。 ・ 講習への満足度の低下に関しては、生徒に寄り添った教育をし、学歴よりも学習歴を身につけるための活動として各役職から教員へ働きかけることも必要だと思う。 ・ BLEND での連絡方法は保護者を巻き込んだ企画を活性化していくことに有効。今後も活用してほしい。 ・ 来年度からスタートする東大選抜コースが刺激となり他のコースの生徒にも良い影響があることを期待。 ・ 授業料無償化は私学に対しては大きなチャンスである。私学ならではの取り組みを示してほしい。 ・ 同じ法人として春日部共栄の取り組みはそのメリットや課題も含めて共栄学園にも共有させてもらっている。今後とも参考にさせてほしい。